

## 学校生活についてのアンケート調査の結果について

### 1 調査の概要

#### (1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小中学校児童生徒を対象に実施しています。

#### (2) 実施時期 平成29年7月～10月

#### (3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生

(単位：人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,776	3,863	3,838	3,872	3,764	3,703	22,816	98.8%

中学生

(単位：人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,446	3,502	3,356	10,304	96.0%

※回答率は平成29年9月1日現在の児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

#### (4) 調査・回収方法 無記名で回答し、記入後その場で回収

#### (5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

設問1～設問4 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問5 「自己の行動の見直し」

設問6～設問8 「周囲の児童生徒の意識」

### 2 調査結果の分析の観点

(1) 過去3年分での推移がつかめるよう、その学年の3年間分の数値を並べてグラフ化

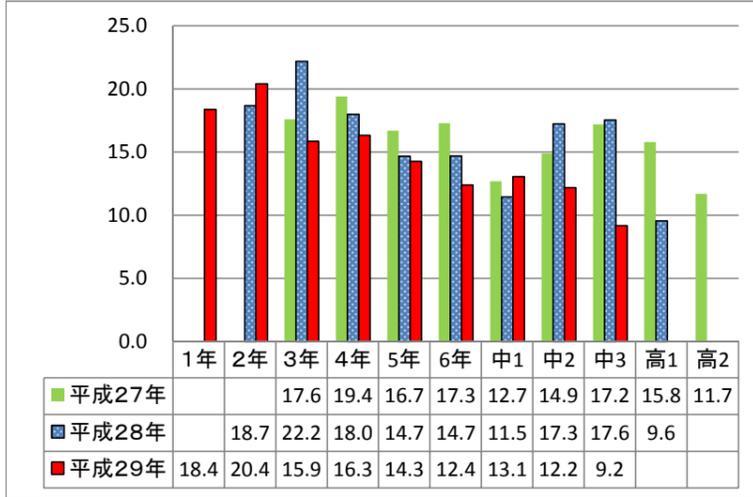
(2) 近年問題視される、パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合の変化

(3) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合の比較

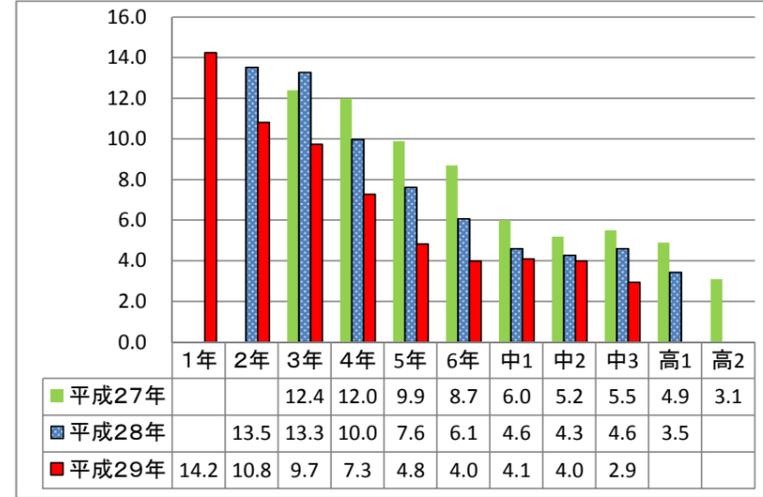
### 3 調査結果の分析と考察 (単位は全て%)

設問1 あなたは今年の4月から今までの間に、くり返し次のようなことをされたことがありますか。(学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒)

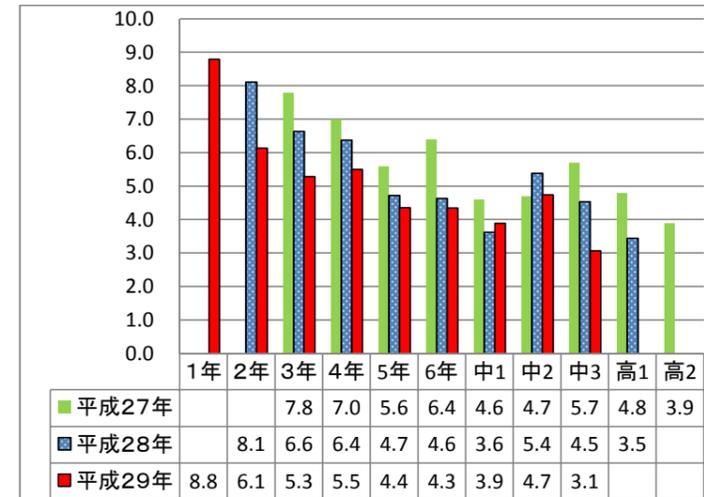
(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われた



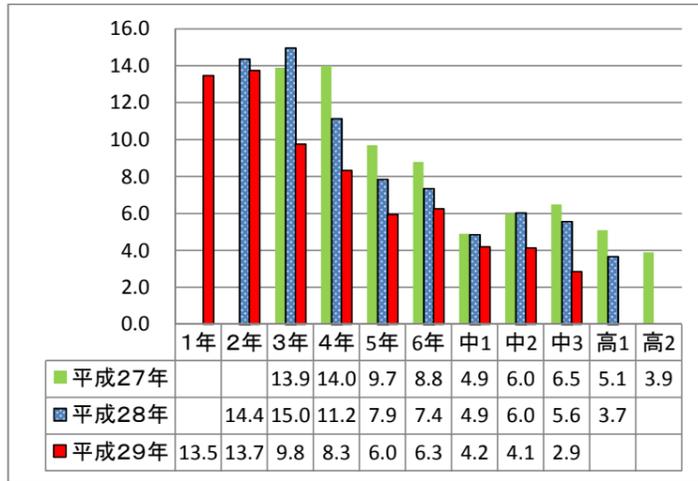
(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりした



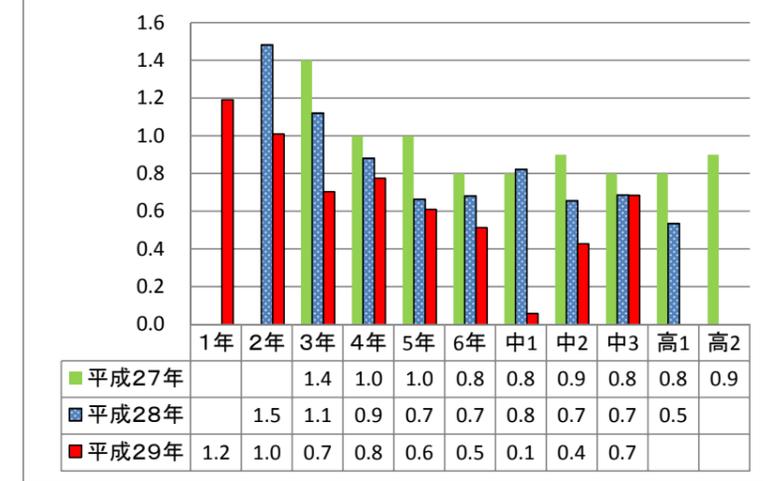
(3) 持ち物を取られたりかくされたりした



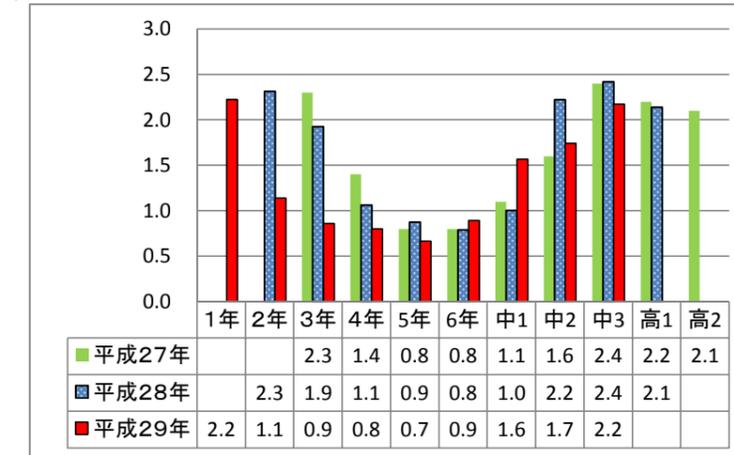
(4) なぐられたり、けられたりした



(5) お金を出させられたり、おごらせられたりした



(6) 悪口の書いてある手紙を教室で回された(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりした



(7) その他

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・嫌なことをされる・あだ名をつけられる・体をさわられる・うそをつかれる・あやまってくれない・注意をきかない・物をとられる・うわさを流される・置いて行かれる・悪口を書かれる・こそこそ話をされる

【中学校】

・陰口を言われる・授業中うるさい・変な噂を流される・勝手に自分の動画を人に見せていた  
・LINEのグループで勝手に写真を送られていた・LINEで悪口を言われた・身体的なことをからかわれた・変なあだ名で呼ばれる・先生が嫌だ・ズボンおろし・避けられる・デコピンされる

(主な意見：平成28年度)

【小学校】

・無理矢理じゃんけん・スカートめくり・物をとられる、壊される・チェーンメール・イスを引かれて転んだ・ドッジボールで一人狙いされた・かんちょうされた・ひそひそ話・秘密(好きな人)を言いふらされた

【中学校】

・写真を撮られ、LINEで色々な人に見られた・LINEで悪口・部活動内の差別・悪口交換ノート・バイ菌扱い・友達を取られる・変な噂を流された・変なあだ名で呼ばれる・食べ物を取ろうとする・配布物を乱暴に渡された・授業中に話しかけられる・好きな人をバラされる・部活で最負がある・水筒の中身を勝手に飲まれる

(考察)

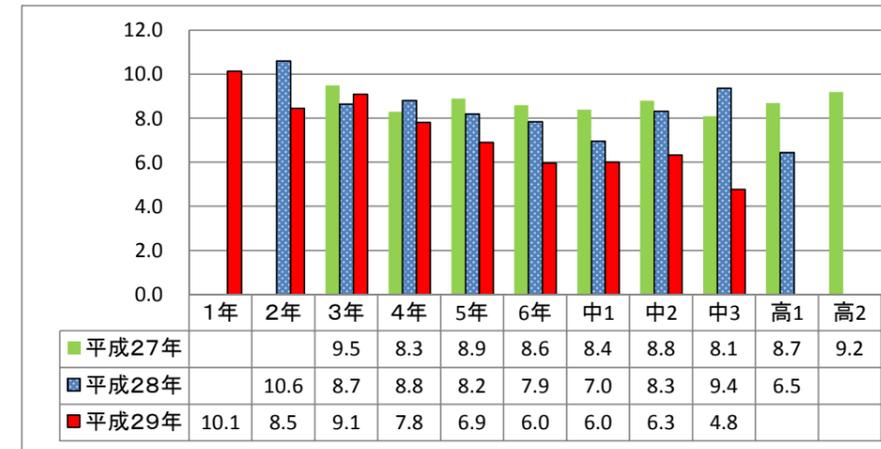
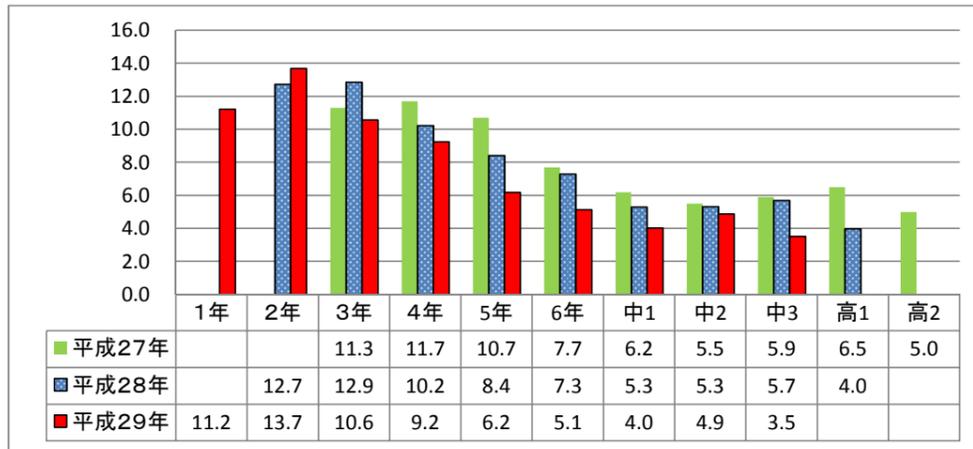
学校生活アンケートの結果について、平成27年度から平成29年度までの3年間の変容を並べて比較できるようにグラフ化しました。全体的な傾向として、小学校2年生と中学校1年生を除き、この3年間でほとんどの学年が減少傾向となっています。

全体的に減少傾向となった一点目の理由として、教職員が児童生徒に寄り添いきめ細かな対応をしていること、二点目として、学校が学校生活アンケートにより把握した実態を指導に生かしていること、また、各学校で策定している「いじめ防止基本方針」に則り取り組んでいることにより成果をあげていること、三点目として児童生徒が自覚を持って自らいじめ防止を行う自治活動として、「あいさつ運動」「目安箱の設置」などを積極的に取り入れているということがあげられます。また、毎年開催している「STOPいじめ!中学生の集いinふじさわ」では、いじめ防止について各中学校生徒会の取り組みを報告しあい、各学校の取り組みの一層の充実を図っています。

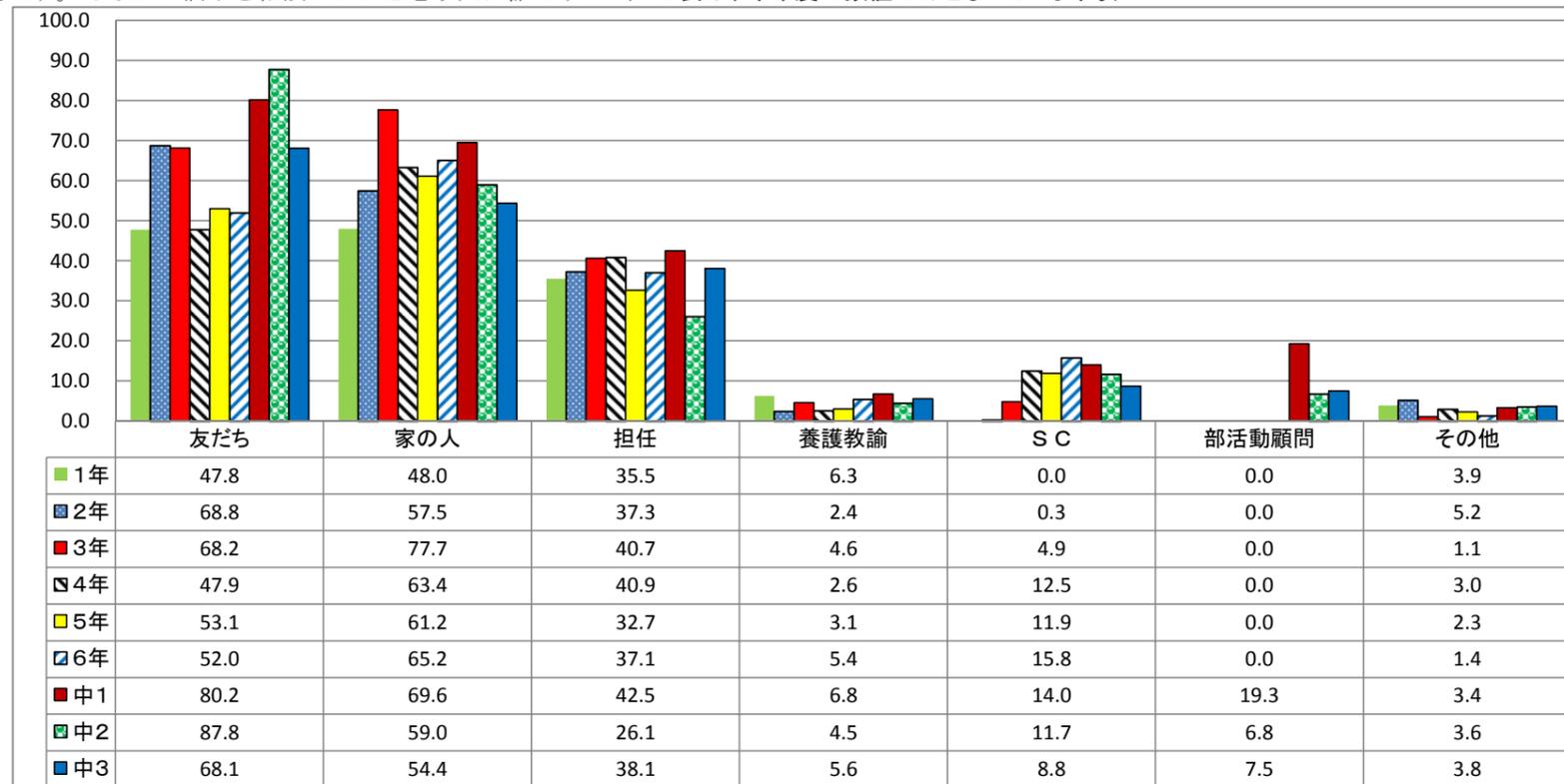
課題としては、(6)の小学校6年生、中学校1年生においてパソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりしたという項目で、昨年度、一昨年度の数値に比べ増加しています。携帯やスマートフォンの所持率が急激に増加する時期だと捉えられます。各学校においては、情報モラル教育に力を入れており、児童生徒のネットトラブルについての理解は進んでいるものの、携帯電話等を持ち始める前の段階で、保護者を対象とした情報モラル教育の一層の推進を図るなどの対策が必要です。

設問2 あなたは、1の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなることがありますか？

設問3 あなたは、友達のことや、心配なこと、相談したいことがありますか？



設問4 3の質問で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか？いくつかでも○をつけてください。  
3で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか？(この表は、今年度の数値のみとなっています。)



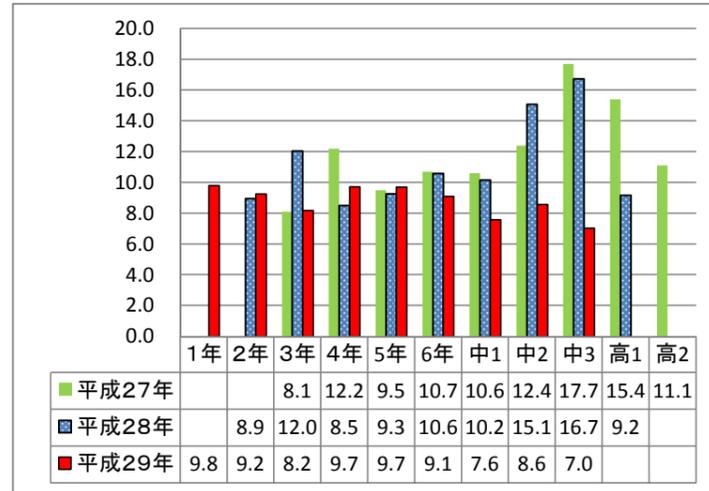
その他

- 【小学校】
- ・祖母・祖父・サッカーのコーチ・習い事の先生・兄弟・親戚・友達のお母さん・近所の人
  - ・学童の指導員・校長先生・警察・チームメイト・前担任・チャイルドライン・ゲームのオンラインの人
- 【中学校】
- ・先輩・祖母・ネットの友人・小学校の先生・信頼できる人・教科の先生・いとこ・双子の兄弟

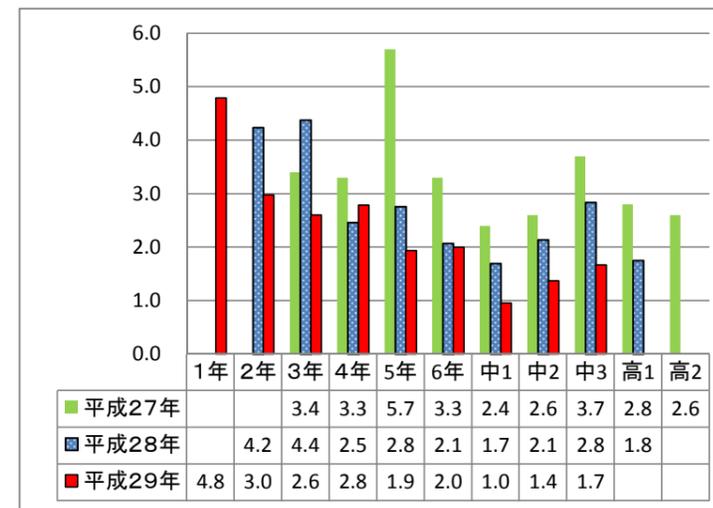
(考察)  
設問2は小学校2年生を除いて、小学校1年生から中学校3年生まで減少傾向に、設問3は小学校3年生を除いて小学校1年生から中学校3年生まで減少傾向となっています。設問4より、児童生徒が悩み事にかかえたときに相談したい相手の傾向は友達と家族はほぼ同水準となっており、次に学級担任という順になっています。その他の意見では、小学校では、家族などの身近な人に相談する傾向が見られ、中学校になると家族よりも友だちに相談をする傾向が見られます。また、ネット上の友人、オンラインゲームの人という回答も見られ、見ず知らずの相手に相談するという危うさも見られます。

設問5 あなたは今年の4月から今までの間に、周りの人に次のようなことをしたことがありますか。(学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒)

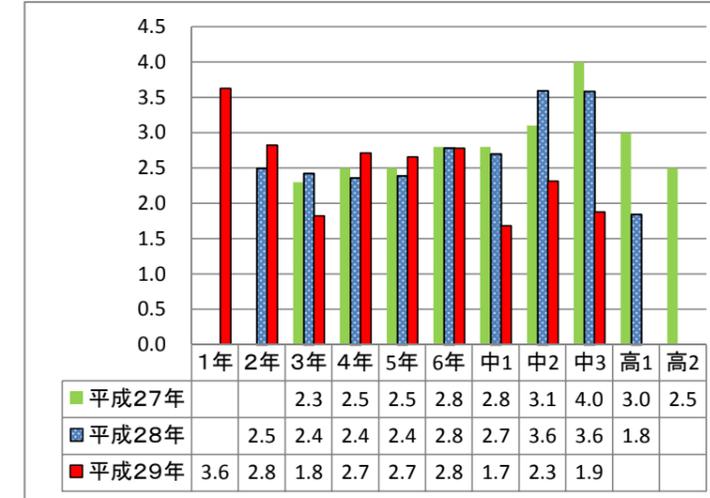
(1) ひやかしたり、からかったり、嫌がることを言った



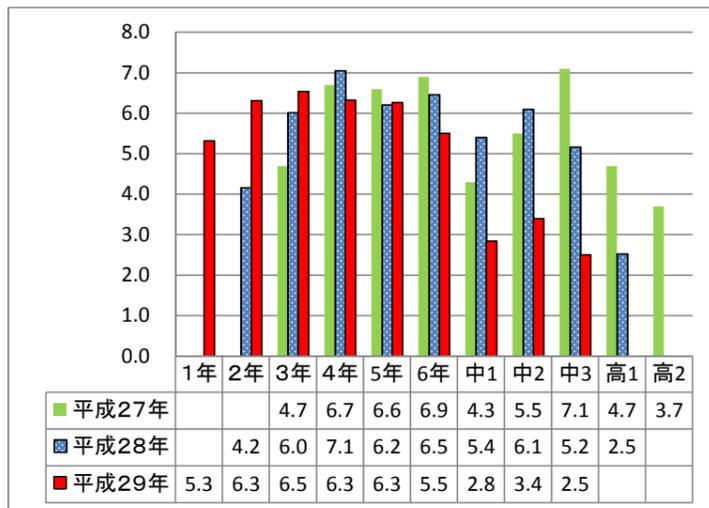
(2) 仲間はずれにしたり、無視したりした



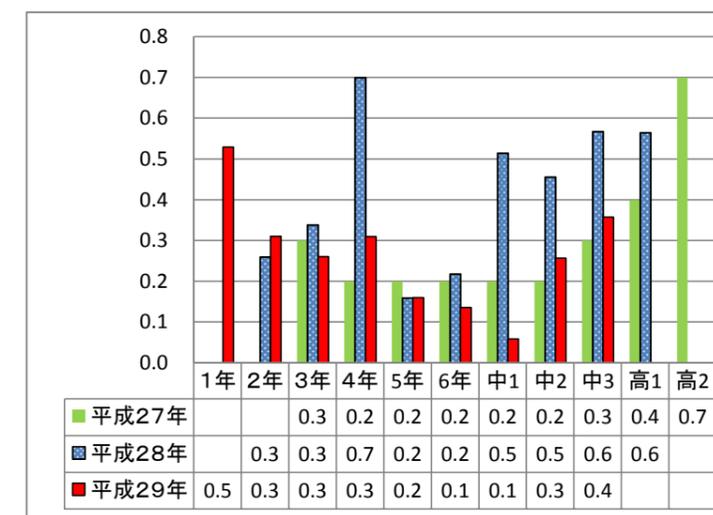
(3) 持ち物を取ったり、かくしたりした



(4) なぐったり、けったりした

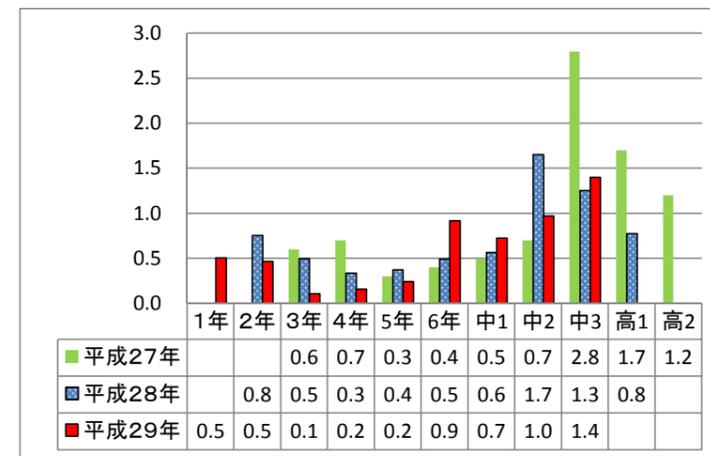


(5) お金を出させたり、おごらせたりした



(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した (小学校低学年)

パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言ったり、書き込んだりした



(7) その他

【小学校】  
 ・悪口をいう・仲間はずれにする・石を投げる・頭突きをした・蹴る・席替え時に隣を嫌がった・無視した・ミニトマトをとった・なぐった・バッグを投げた・作ったものをこわした  
 【中学校】  
 ・きついことを言う・先生に反抗した・動画をネット上にあげた・嫌なことを言う人に合わせていた・ノートと筆箱を糊でくっつけた  
 (主な意見：平成28年度)  
 【小学校】  
 ・ネット通信によるもの・遊びのルールを勝手に変える・カサを投げた・約束を破った・人の物を壊した・ドッキリを仕掛けた・キツイ言い方をした・やめてと言われたのにやめなかった  
 【中学校】  
 ・友達へのいじめの仕返しをした・LINEで写真を送った・LINEの書き込み・嫌なあだ名で呼ばれる

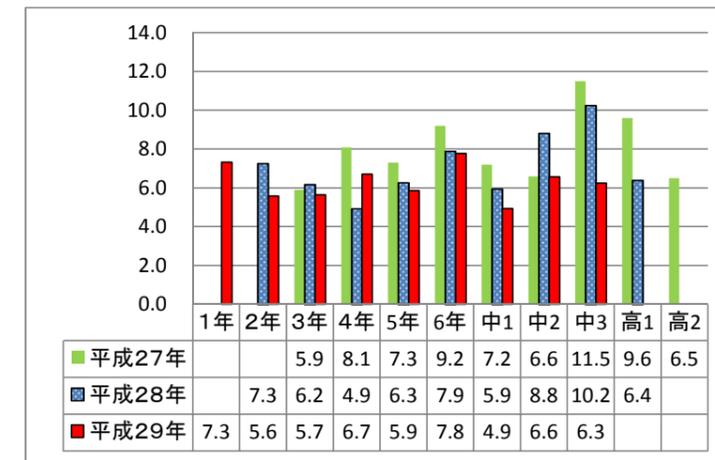
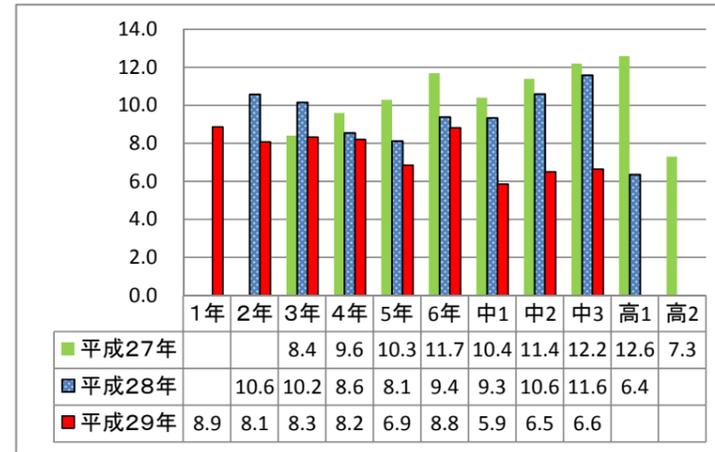
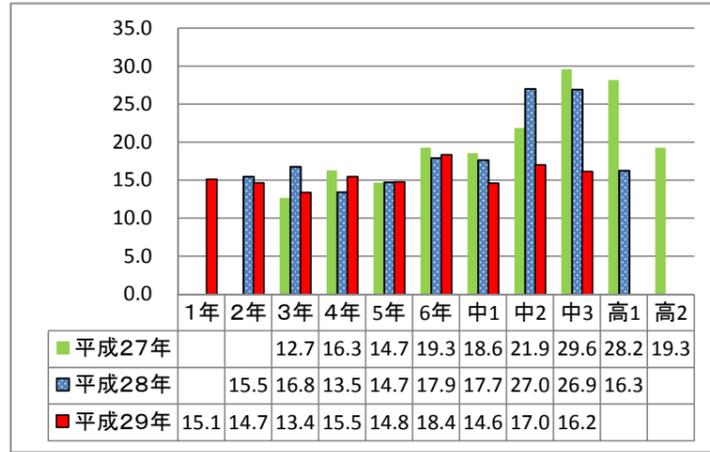
(考察)  
 設問5では、自分がしたことを調査しています。  
 中学生は全体的に減少し特に3年生に著しい減少傾向が見られます。しかし、(1)(3)において、小学校2年生、4年生、5年生は昨年度の数値から増加しています。また、(4)において現在の小学校2年生、3年生、5年生で増加しています。  
 パソコンや携帯電話・スマートフォンについての質問は、設問1と同じく小学校6年生、中学校1年生に増加傾向が見られます。  
 全体的な傾向として、自分がされたことを質問している設問1に比べ、数値が低くなっています。自分はいじめているつもりは無くても、相手にとっては嫌だと感じる場合があり、感じ方がそれぞれ違うことを認識させる必要があります。日頃から相手の気持ちを考えて、お互いに尊重しあって生活していくことを指導していくことが大切です。

設問6 あなたは今年の4月から今までの間に、同じ人がくり返し、次のようなことをされている場面を見たり、聞いたりしたことがありますか。(周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒)

(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われていた

(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりしていた

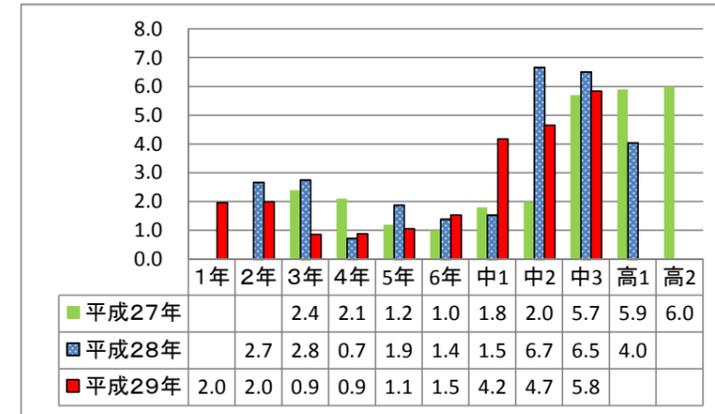
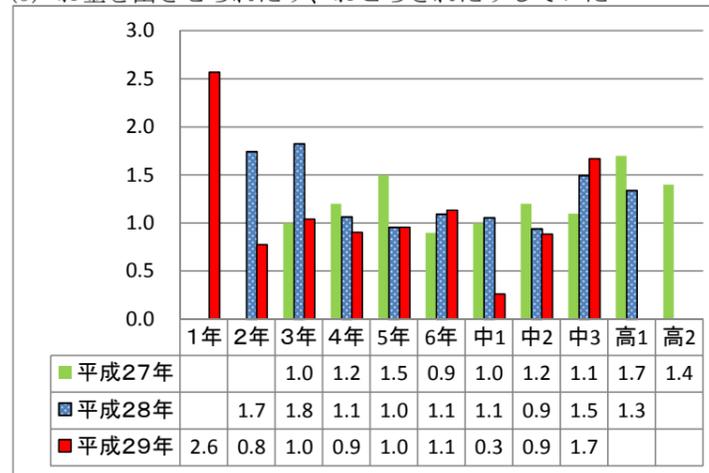
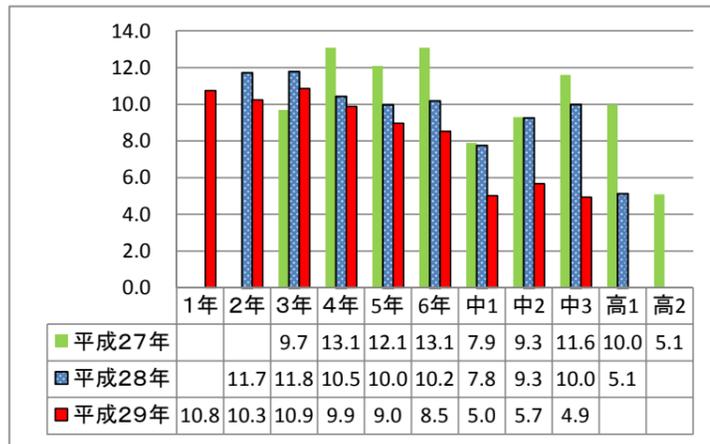
(3) 持ち物を取られたり、かくされたりしていた



(4) なぐられたり、けられたりしていた

(5) お金を出させられたり、おごらされたりしていた

(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年)  
パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を書き込まれていた



(7) その他

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・わざと転ばしていた・言いなりにされていた。・手紙を捨てられていた・死ねといわれていた・弱い者いじめをしていた・土下座させられていた・名前を変えて呼んでいた・叩いていた・折り紙をとられていた

【中学校】

・教科書に落書き・物を投げている。・本人のいないところでのかげ口・人の水筒の中身を飲んでいた。

(主な意見：平成28年度)

【小学校】

・ホウキを持って追いかけられる・ネット通信でのケンカ・順番を抜かす・石を投げられていた・つねられていた・パンツをおろされていた・集団で悪口を言われていた・スカートめくり・髪の毛を引っ張る

【中学校】

・弱みにつけ込むことを言う・悪口LINEグループ・噂を流される・女子が女子を無理矢理、男子トイレに入れる

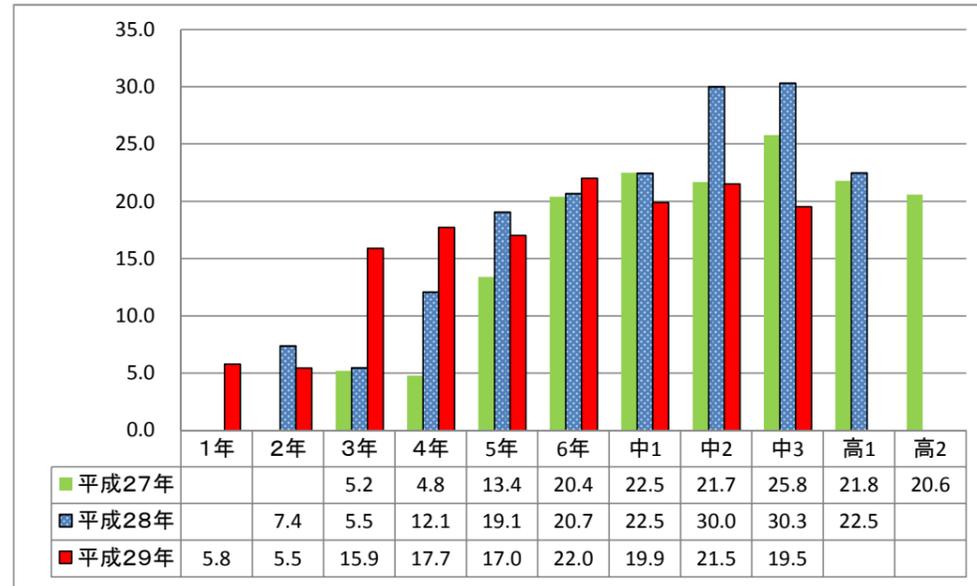
(考察)

全体的な傾向としては、3年間での減少傾向が見られます。(1)において小学校4年生、5年生、6年生で増加傾向があります。パソコンや、携帯電話・スマートフォンについての回答で、やはり小学校6年生、中学校1年生の数値が増加しています。

設問1の「自分がされたこと」設問5の「自分がしたこと」に比べ、「されているのを見たり聞いたりしたこと」という設問のため、数値が大きくなっています。各学校の取り組みなどにより、いじめについての児童生徒の感度が上がったこと、一つの事案に対して、複数の児童生徒からの回答があったと思われることなどから、このような結果になったと考えられます。

携帯電話等の質問では、今年度は小学校6年生、中学校1年生で増加しており、今後の課題となっています。ネット上の閉ざされた世界での出来事は、学校や保護者が感知しづらいため、こういった情報を見たり聞いたりした児童生徒からの訴えに頼るしか発見の手立てが無いのが現状です。児童生徒への心の教育、情報モラル教育を一層推進する必要があります。

設問7 あなたのまわりには、6の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなっている人がいると思いますか？



設問8 6の(1)~(7)のような場面を見たり、聞いたりしたら、どうしますか？

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・注意する・とめる・先生に相談する・助ける・大人に言う・はげます・話を聞く・見て見ぬふりをする・話し合う・友達に相談する・味方になる・SCに言う・解決してあげる・やった人をおこる・保護者につたえる・やられた人の気持ちを伝える・仲直りさせる・けんかする・けいさつに言う

【中学校】

・先生に言う・相談にのる・注意する・止める・大人に言う。・声をかける・何もしない・無視する・家の人に相談する・SCに相談する・みんなと同じように無視する・双方の話を聞く・いじめた子と仲良くする

(主な意見：平成28年度)

【小学校】

・自分たちで解決する・どうにかして止める・助ける・注意する・いけないことだと教える・友達になる・けんかの理由を聴く・かばう・励ます・優しくする・一緒にいてあげる・友達になる・仲直りを勧める・先生、家の人、友達に言う・警察に言う・何もできない・見てみぬフリをする・巻き込まれたくないからその場を離れる

【中学校】

・止める・相談に乗る・注意する・声をかける・加害者に理由を聞く・何ができるか考える・「一人じゃないよ」と伝える・自分にはしないようにする・先生、友達、家族、SCに相談する・チャイルドラインに電話する・ダメだとわかっていても何もできない・注意したら、自分がやられるので言えない・LINEならほっとく

## 4 アンケート結果から見える課題と取り組みの成果

### (1) 課題

ア 小学校高学年から中学生にかけてのパソコンや携帯電話・スマートフォンによるトラブルが増加しています。情報機器関連のトラブルは問題性が見えにくく、水面下での進行が懸念されることから、早期発見に向けての対策や、保護者を対象にした情報モラル教育の推進を図る必要があります。

イ 小学校2年生～5年生については、周りの人に嫌な行為をしたことがあると答えた児童が増加しています。対象学年に対する適切な対策を図る必要があります。

### (2) 取り組みの成果

「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒」「学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒」「周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒」については、経年の推移や学年が上がるにつれ減少傾向が見られています。この結果は次のような取り組みの成果だと考えられます。

ア 教職員が日頃からきめ細かく児童生徒を観ていることや学校生活アンケート等の実施により、いじめの早期発見・早期対応につながっています。

イ 児童生徒のいじめに対する自覚が高まり、「あいさつ運動」「目安箱の設置」「アンケート調査」の実施など、各学校において児童生徒によるいじめ防止に向けた自治活動が積極的に推進されています。

ウ 「藤沢市子どもをいじめから守る条例」の施行や各学校の「いじめ防止対策基本方針」に基づいた取り組み、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会の開催により、教職員のいじめに対する意識や対応力が高まっています。

## 5 今後の取り組み

情報機器を介して起こるトラブルについては、引き続き学校において、児童生徒・保護者に対する情報モラル教育を推進するとともに、学校に対して対処法等について最新の情報を提供し、トラブルが発生した際には学校と連携して早期対応を図ります。

小学校低学年の課題については、学校は、この年齢の特性を理解し、一層丁寧な指導と支援が必要になります。まずは、学校内において情報を共有し、チームで支援指導していくことが重要になります。その際、スクールカウンセラーや特別支援学校の地域支援を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。

教育委員会は、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させていくとともに、子どもたち一人ひとりを大切にする「藤沢の支援教育」の考え方をひき続き周知していきます。小学校においては、現在28校に配置している児童支援担当教諭の全校配置を目指し、児童支援担当教諭と生徒指導担当教諭を窓口とした、小中学校の連携に力を入れ、9年間の連続した児童生徒支援・指導を目指します。